児童のかかわりを大切にする支援のあり方について

―総合学習「げきあそびをしよう」の実践から―

松　本　典　子

1　げきあそびにおける人やものとのかかわりについて

げきあそびにおいて，かかわる人は，いっしょに活動する友だちであり，かかわるものは，音楽や衣装，小道具である。そのかかわり方は児童の実態に応じてさまざまであり，小道具を介して友だちとかかわることもある。本実践「げきあそびをしよう」では，げきあそびの活動の中で次のような子どもの姿を「かかわり」と捉えた。

○　劇の登場人物に自分なりの思いをもつ姿
○　劇中の歌や踊りを自分なりに表現する姿
○　小道具を使って自分を表現する姿
○　いっしょに演じる友だちの台詞や動きを模倣する姿
○　いっしょに演じる友だちに声をかけたり，教えてあげたりする姿

本実践ではこのような子どもたちの姿を目指して単元を構成し，子どもの実態に応じた具体的な支援のあり方を考えていった。

2　実践事例「げきあそびをしよう」

(1)　単元について

げきあそびは，自分がやりたいと思う登場人物になって台詞を言ったり，小道具を持って表現したりすることを楽しむことのできる活動である。また，他の登場人物を演じる友だちの様子を見たり，友だちといっしょに物語を進めていく楽しさを味わうことができる。

本単元では，げきあそびにおける児童の実態と課題（表１）とげきあそびに関する児童の「かかわり」についての実態と課題（表２）に基づき，オリジナル劇「こぶたとおおかみ」に取り組んだ。

（表１）　げきあそびにおける児童の実態と課題

実　　態	課　　題	児童
・指導者の働きかけにより，友だちや教師の台詞や動きを模倣して表現することができる。	・自分の好きな動きや友だちの動きを手がかりに，自分の役をイメージして表現活動ができるようになる。	①
・指導者といっしょに，自分の好きな場面や印象的な場面の台詞を表現することができる。	・自分の好きな動きや配役を手がかりに，自分の役をイメージしながら表現活動ができるようになる。	②
・自分のやりたい役をイメージして，自分の好きな台詞や動きを表現することができる。	・劇全体を通して，自分の役のイメージをしっかりもち，台詞や動きを豊かに表現できるようになる。	③
・自分のやりたい役をイメージし，印象的な台詞を自分の言葉で表現することができる。	・劇全体を通して，自分の役のイメージをしっかりもち，自分が表現したいことを言葉や動作で豊かに表現することができるようになる。	④

・友達や指導者の動きを模倣して表現することができる。	・自分の役のイメージをしっかりもち，自分なりの言葉や動きで表現活動ができるようになる。	⑤
・指導者の働きかけにより，自分の好きな場面の動きを表現することができる。	・自分の好きな音楽や小道具を手がかりに，自分の役をイメージして表現活動ができるようになる。	⑥

（表２）　げきあそびに関する児童の「かかわり」についての実態と課題

実　　態	課　　題	児童
指導者のことばかけや友だちの動きを手がかりに活動する。	友だちの動きを手がかりにして，友だちとかかわって活動するようになる。	①
指導者といっしょに活動する。	指導者のことばかけや支援により，友だちを意識して活動するようになる。	②
友だちの動きを手がかりに活動する。	集団での活動の仕方が分かり友だちとかかわって活動するようになる。	③
集団での活動の仕方が分かり，自己主張しながら活動する。	自己主張をしながら，いっしょにやる友だちのことを考えて活動するようになる。	④
指導者のことばかけや友だちの動きを手がかりに活動する。	友だちの動きを手がかりに，友だちとかかわって活動するようになる。	⑤
指導者といっしょに活動する。	指導者のことばかけや場の設定により友だちを意識して活動するようになる。	⑥

劇の作成にあたっては，児童の実態に応じた劇となるよう，以下の４点を大切にした。

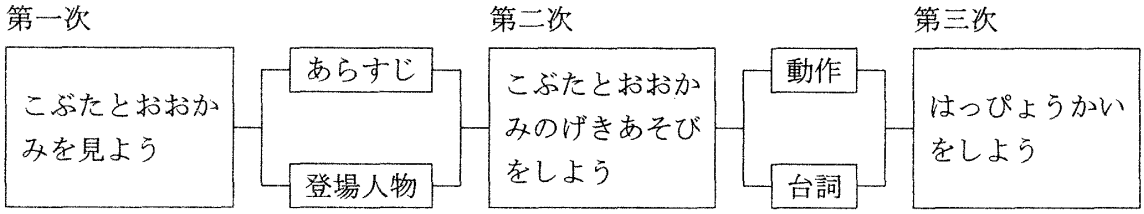
① 登場人物……子どもたちが日常生活の中で好きなことや楽しんでいる遊びを役の特徴として取り入れる。
② 台詞……子どもたちが日常生活の中でよく使っている言葉を取り入れる。また，友だちの台詞を模倣できるような台詞の順序にする。
③ 音楽……子どもたちが日常生活の中で好んでいる音楽を，登場の場面等で用いる。
④ 小道具……子どもたちが日常生活の中で遊びに使っているものや，友だちといっしょに楽しんで使っているものを用いる。

このような劇を体験していくことにより，子どもたちは自分なりの人やものとのかかわりをもつことができると考える。

(2) 指導目標

① 音楽や小道具，友だちとかかわりながら役を演じることで自己表現できるようにする。
② 友だちといっしょに，げきあそびをする楽しさを味わうことができるようにする。

(3) 指導内容と計画



(4) 指導の実際

① 本時（第二次　第１時）の目標

音楽や小道具といったものや，いっしょに演じる友だちとかかわりながら自分の役を楽しんで演じることができる。

② 授業仮説

児童が劇の中で音楽や小道具，友だちとかかわりながら自分の役を楽しんで演じることができることを期待し，次のような授業仮説を立てた。

手がかりとなる音楽や小道具を用意したり，いっしょに演じるペアや場を設定したり詞の順序を工夫したりするならば，自分なりのかかわりをもちながら劇あそびをすることができるであろう。

③ 目標行動と教師の支援

目　標　行　動	教　師　の　支　援	児童
・小道具を使って自分なりの動きをすることができる。 ・友だちの動きを手がかりにして自分の台詞を言ったり，動いたりすることができる。	・児童が好むと思われる小道具を提示する。 ・意図的にペアを設定し，台詞の順序を工夫する。	①
・音楽を手がかりに登場することができる。 ・指導者や友だちの呼びかけにより，小道具を友だちといっしょに持つことができる。	・手がかりとなる音楽と小道具を提示する。 ・意図的にペアを設定する。	② ⑥
・自分なりに台詞や動きを工夫することができる。 ・友だちの手がかりとなるような台詞を言うことができる。	・児童が好むような特徴を登場人物にもたせる。 ・いっしょに演じる友だちのことを意識できるようなことばかけをする。	③
・自分なりに台詞や動きを工夫することができる。 ・友だちの手がかりとなるような動きをしたり，台詞を言ったりすることができる。	・児童が好むような特徴を登場人物にもたせる。 ・いっしょに演じる友だちを意識し，働きかけることができるようなことばかけをする。	④
・友だちの台詞を手がかりにして，自分の台詞を言うことができる。 ・ペアの友だちに働きかけることができる。	・友だちの台詞を模倣できるように，台詞の順序を工夫する。 ・ペアの友だちと手をつなぐなど，場の設定を工夫する。	⑤

④ 準備物

パネルシアター，不織布，テープ（音楽，効果音），小道具

⑤　学習の展開

学　習　課　程	予想される活動	教　師　の　働　き　か　け	
		全　体	個　別
1．始まりのあいさつをする。		1．・学習の始まりとして毎時間位置づける。	1．・本日の当番児童にことばかけをする。
2．3匹の子ぶたを視聴する。 登場人物 物語の展開	2．・あらすじを理解して先の展開を言うであろう。(児③④) ・自分の好きな音楽や登場人物が出たときに，喜びを自分なりに表現するであろう。(児①⑥) ・自分が好む場面の台詞を指導者を模倣して言うことができるであろう。(児②⑤)	2．・劇遊びの際に見通しをもちやすいよう手がかりとなる音楽を用いてパネルシアターを行う。 ・登場人物の動きや言葉が児童に分かりやすいようにシアターの演じ方を工夫する。	2．・児③④には，全体の場で賞賛する。 ・児①⑥には，それぞれが特に好む場面を強調して演じ，喜びに共感することばかけをする。 ・児②⑤には，台詞を言ったことを賞賛する。
3．劇遊びをする。 配役 音楽 小道具 台詞 動き	3．・前時までの活動を思い出し，進んで小道具などを準備するであろう。(児①③④⑤) ・自分の役を演じるのに支援が必要であると思われる。(児②⑥) ・台詞の順序や劇の流れを理解し，進んで役を演じるであろう。(児③④) ・自分の役を演じることのみに集中しがちであると思われる。(児③④⑤) ・自分の台詞を言うのに支援が必要であると思われる。(児①⑤)	3．・劇遊びを行いやすいように，スペースを工夫して設定する。 ◎それぞれの役柄について，登場の手がかりとなるような音楽を提示する。 ◎友だちといっしょに持ったり動かしたりして，表現することができるような小道具を用意しておく。 ◎いっしょに演じる友だちのことを意識できるようなことばかけをする。	3．・児②⑥には，他児の動きを見ていっしょに準備できるようことばかけをする。 ◎児②⑥には，友だちといっしょに小道具を持つよう声をかける。また，友だちの呼びかけを意識できるようなことばかけをする。 ・児③④には，自分なりに台詞や動きを工夫することができるような時間を保障する。 ◎児③④⑤には，ペアの友だちを呼んだりいっしょに手をつないだり，他児のモデルになるようなことばかけをする。 ◎児①⑤には，自ら発した言葉を賞賛し，自信をもって台詞を言うことができるようにする。また，友だちの台詞を模倣して言えるようことばかけをする。
4．終わりのあいさつをする。		4．学習の終わりとして毎時間位置づける。	4．当番児童に言葉かけをする。

3　考察

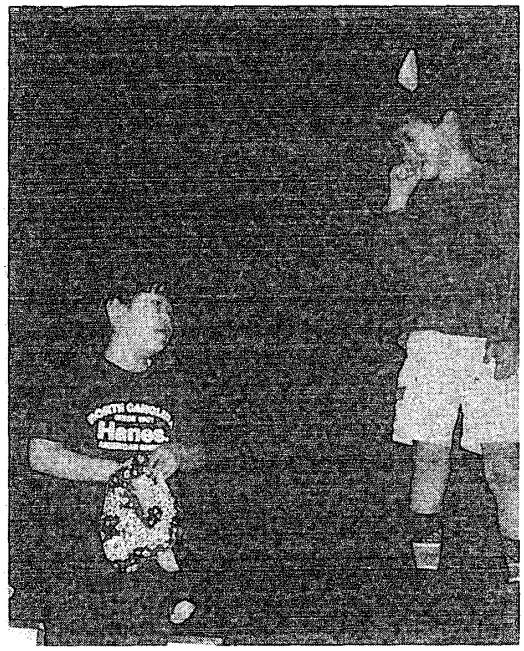
(1)　子どもたちのかかわりの姿

げきあそびの初めの段階で，６つの登場人物から自分がやってみたい役を選ぶ場を設けたが，全員の子どもが，役の特徴を手がかりとして迷うことなく決めることができた。やりたい役が友だちと重なっても良いことや，前回と違う役を選んでも良いことを伝えたがそれぞれの子どもが自分の選んだ役に自分なりの思いをもっており，最初に選んだ役を変更することはなかった。

児童②・⑥は，登場の音楽を手がかりとして，見通しをもって動いたり，踊ったりして自分の思いを表現することができた。また，電車やパズルといった小道具を介して友だちといっしょにやるという見通しをもつことができていた。

児童①・③は，得意とするなわとびを使って自己表現することを楽しむことができた。また，好きな食べ物であるエビフライをいっしょにつくって食べることができた。

いっしょに電車に乗る児童①④⑤



児童⑥に働きかける児童⑤

児童③・④・⑤は，小道具を手がかりとしてしだいに自分なりの言葉で台詞を言ったり，動きを考えたりするようになった。また，兄弟役の児童のモデルとなるような動きや台詞を言うことができた。さらに，げきあそびをくり返すことにより，友だちを意識して進んで声をかけ，友だちといっしょに活動することを積極的に楽しむ姿が見られるようになった。

子どもたちのかかわりの対象や方法は一人ひとり異なっていたが，個々の実態に応じたかかわりの姿であった。

(2)　これからの課題

本実践で見られた子どもの姿は，劇の中に，自分の好きな遊びや食べ物や音楽などがあり，子どもたちが「やってみたい。」と思ったことにより生まれたかかわりであった。また，兄弟でいっしょに住む，３人乗りの電車に乗るといった意図的な場の設定が，子どもたちのかかわりに大きく影響していた。今回のような支援のあり方は，本学級（低学年）の児童の実態から考えて妥当だったのではないかと考える。今後は，子どもたちがこのような「かかわり」を積み重ねることによって，より直接的な友だちとのかかわりをもつことができるよう願い，その支援のあり方を探っていきたいと思う。